

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ③⑧

『坪内稔典 日本全国河馬めぐり カバに会う』を読む

ゴールデンウィーク、いかがお過ごしでしたか。私は何度も天王川公園と津島神社の社務所を行ったり来たりしました。社務所は横井照子さんの美術展の会場に足を運んだのですが、天王川公園は藤祭りを楽しみました。藤の花、藤の香りに加え、沢山の屋台やキッチンカー。屋台らしい、ベビーカステラや串カツ、たこ焼きやバナナチョコレートなどを買いました。一緒に出向いた小学校1年生はサメつりが楽しかったようです。さすがに暖かくなり、噴水の水遊びも楽しんでいました。私は、藤の棚で行われていた野点も券を購入し参加しました。美味しいお饅頭とお抹茶をいただきました。市内で写経を受け付けてくださるお寺を見つけの、思い切って参加してみました。短い経文を書いてみました。寺宝も見せていただき、のんびりした散歩の時間となりました。津島という街は本物と出会うことのできる所です。今年のゴールデンウィークはコロナも少しおさまり、天気にも恵まれたので、近場を中心に多くの人を楽しんだのではなかったでしょうか。

東山動物園のお土産でカバのフィギアをいただきました。懐かしくなり『日本全国河馬めぐり カバに会う』という本を久しぶりに読み返しました。実は私のニックネームは「カバ先生」でした。私のお気に入りのあだ名でした。近頃はニックネームで呼び合うことは少なくなりましたが、私が担任だったころは保護者の皆さんも子どもたちも、カバ先生と呼んでくださいました。そんな話をしたら、詩歌の得意な保護者の方からこの本を紹介していただきました。坪内さんという方が全国の動物園のカバを訪ねるエッセイです。豪快なカバの食事風景（キャベツをまるごと食べる）、日々の生活（水中生活）が描かれています。坪内さんは俳人でもあるので、沢山の仲間の方の俳句が紹介されています。

先生がだんだんカバに晩夏かな
私たち河馬が大好き青葉風
全国の河馬が口開け桜咲く
河馬沈み河馬が浮くまで合歡の風
正面に河馬の尻あり冬日和

特に東山動物園のカバとコビトカバが丁寧に紹介されています。東山には、全国に血縁のカバを送り出した、カバ界のゴッドファーザー重吉や福子がいます。また江戸時代尾張藩の家老、横井也有が開いた植物園についても紹介されています。こんな素敵な本を読んで、動・植物園をまわってほしいと思います。

令和5年5月8日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視